

こぶし通信

Vol.59
2024.4

社会福祉法人こぶしの会

〒630-8424 奈良市古市町529-4

電話 0742-63-6765 FAX 0742-63-6766

e-mail/kokkara@kokkara.jp <http://kokkara.jp/>

発行責任者/坂下 伸一

Column 権利を守り、保障するということの今

～奈良教育大学附属小学校問題と障害者福祉の報酬改定から考える～

社会福祉法人こぶしの会 理事長 坂下 伸一

奈良教育大学附属小学校問題

テレビや新聞で報道されている「奈良教育大学附属小学校問題」を知っておられるでしょうか。私は、こぶしの会に来るまで、長く奈良教育大学附属小学校に勤めていました。最後の6年間は、副校長（教頭）をしていました。ですから、この問題が報道された時は、驚きと同時に、自分自身のしてきたことを否定された思いがし、悲しくなりました。

1月17日に行われた大学の記者会見によると「学習指導要領通り行わない法令違反があったこと、教員が校長の命令を聞かない不適切な教員がいたこと、教科書を使っていないことなど」が問題点として指摘されていました。そして、その後、大学から附属小学校教員の多くを本人の同意なしに外向させるという話がでるに至り、一層の混乱を招くという状況になってしまいました。

学習指導要領のあり方や教科書使用については、個人それぞれの考え方によって、意見が分かれるところです。しかし、不適切な教員がいること、その教員を研修させるという名目で外向させるということには、とうてい同意できません。私自身の経験からして、校長を無視したことなどなく、校長も含め、教員全体で合意して、何事も進めていたからです。

私が今回の「奈良教育大学附属小学校問題」で一番言いたいことは、こうした混乱の犠牲になっているのが、子どもたちだということです。学級の先生が、何か間違ったことをしている。来年度から、急に居なくなるというような大人の世界の出来事に巻き込まれていることです。この問題をめぐっては、一方的に「批判」や「不適切」と決めつけるのではなく、子どもにとって、どういった学習を保障することが必要なかを、みんなで話し合っただけで決めていくことが大切ではないでしょうか。子どもを悲しませないで、学ぶ権利（学習権）を守っていくことこそ大切にしなければならぬと思います。

障害者福祉の報酬改定

今年4月から障害者福祉の報酬が改定されます。私たちこぶしの会は、国から支出されるこの報酬で運営されています。ですから、報酬改定は、こぶしの会の運営や仲間との実践に大きな影響がでます。報酬が下がれば、運営が苦しくなります。働く職員のみさんの給料を上げることが

できなくなります。仲間にも影響します。

今回の報酬改定では、全体としては、少し増額となっています。その他、食事提供体制加算（給食費に補助金を出す制度）について、厚労省は「自分で食べる昼食代に補助を出すのはどうか」という考え方に基づき、加算をなくす方向で検討されてきました。しかし、私たちの要望が実って残ることになりました。次回はどうなるかわかりませんが……。

今回の改定で、一番問題となっているのは、生活介護事業所（こっから）報酬の実質的な切り下げです。これまで、仲間が生活介護事業所に居る時間によって、報酬を決めているところもありましたが、時間をより細分化することで、報酬削減をねらっています。こっからでは、仲間は基本的に6時間～7時間いることになっていますが、これで計算すると、数百万円の収入減になってしまいます。こうした状況では、仲間たちの生活を支えることができなくなってしまいます。よく働いてくれている職員に、一層労働強化を押し付けることになりかねません。これでは、障害のある仲間が持っている他の人たちと同じように幸せに生きる権利を守ることができなくなってしまいます。

2つの出来事から、障害のある人の生きる権利や子どもの学ぶ権利を守り、保障することが危うくなっていることを述べました。それだけでなく、日本の現状は、多くのところで、権利侵害が起こっているように思えてなりません。今こそ、あらゆる分野の人たちと手をつなぎ、一緒に考え合うことが、障害のある人の権利を守り、保障することに繋がるのではないのでしょうか。



ふゅーちゃー合同クリスマス会

ふゅーちゃー NEWS

少し前の話になりますが、昨年の12月21日にグループホームの合同クリスマス会を開催しました。すまいるが開所して以降、ず～っとコロナ禍で今まで色んな季節のイベントを自粛してきた中で、ようやく開催できる目途が立ってきたところでのクリスマス会。せっかくなので全ホームで集まってBIGなパーティーを開いてみよう！ということになりました。

4つのホームの仲間が25人、そこにスタッフが入って総勢37人のビッグイベントに挑戦することに！ クリスマス会が決まってからは、「とても楽しみにしてるねん。」という声も多く聞かれ、ひまわりでは「一人では恥ずかしいから二人で歌おう。」と誘い合って歌の練習をする方たちもいました。一緒なら心強いという気づきに背中を押され、人前に立つ二人を見ることが出来てうれしい気持ちに。

それぞれののど自慢あり、ヒゲダンスあり、開会、閉会の挨拶もアドリブであり、クリスマス仕様の特注のお弁当に、もちろんプレゼントやケーキもありで満足そうな笑顔も見られました。

（ぐうぐうハウスは昨今の感染症関係の事情により個別でのクリスマス会になりました。次こそは全ホームが集まれますように。）

（文責：竹田 悦子）



木工 サークルで…

こっから サークル活動

ぼくたちが木工サークルでこれまでに作ったのは、

- ・豆腐工房のスリッパの棚
（豆腐の仲間のスリッパを24足入れることができます）
- ・机（今は消毒記録表の台に使っています）
- ・イス（3つ）
- ・タオルを整理する棚（職員さんからの注文です）
- ・木工サークルで自分たちがつかう棚
- ・パンと豆腐の宣伝の看板

（2枚。道路に面したフェンスに付けています）

この中でぼくが一番気に入っているのは、スリッパ棚です。みんなのスリッパを全部入れることができたし、色もぬれたし、みんなにすごく喜んでもらったからです。

二番目に気に入っているのは、職員さんから頼まれた、タオルの棚です。できあがって持って行くと、職員さんは、「すごいやん！注文通りにできてるやん。」と言ってくれました。うまくできたらたのしいし、よろこんでもらえたらうれしくなります。

三番目は、イスです。イスを売ったお金でコーヒーやドーナツを買って、木工サークルのみんなで食べました。

ほとんどもらってきた木でつくっています

（文責：菅原 啓・山室 光生）



ここにでのGHT食づくり

ここに NEWS

ここには、グループホームの夕食作りをなかまと一緒に
行っています。

農家さんから仕入れた奈良県産の新鮮野菜をつかって「家庭的なごはん」を作っています。設備や運搬の関係で、できるメニューも限られていますが、なかまの声をききながら少しずつ新しいメニューに挑戦しています。

特に、グループホームの誕生日会では『お誕生日メニュー』
といって好きなメニューをリクエストできるようにしています。「ケンタッキー」や「彩華ラーメン」など意外なリクエストもあり、新たなメニューが生まれるきっかけにもなっています。

30食前後の食数なので家庭での作り方とは全く異なり、様々な問題や失敗を乗り越え、少しずつレシピを完成させながら取り組んでいます。

また、ここにのなかまも大活躍しています。切るのが上手なひと、肉をこねるのが好きなひと、計量が得意なひと…それぞれに合わせながら楽しく、やりがいと責任感をもって取り組んでいます。

これからも新作メニューはもちろん、なかまの新たな挑戦から「得意の発見」や「成長」につなげ、なかまの活躍の場ももっと広げていければと思います。
(文責：松田 加奈)



そうだんしつの窓から

こぶしの会相談支援センター 小針 康子

「能登半島地震～高齢化率50%超の被災地、いのちと尊厳は守られているか」

被害の大きかった奥能登は輪島、珠洲の2市と穴水・能登の2町、人口57,000人。高齢化率は50%を超えます。「半島・過疎地域・孤立集落」「道路の寸断・悪路」「断水・停電」ここに、「冬・雪・寒さ」が襲う中で被災地となりました。もう4月の声を聞くのに、まだ「水」が家庭には届かず、市外避難者が人口の3割に迫り、奥能登地域の「人口流出」が加速しています。

■障害のある人、高齢者の状況は

障害者手帳を持つ人は4498人。要支援者9430人。能登6市町で障害者施設は47か所から29か所に減りました。日本相談支援専門員協会がケアマネ協会、保健師らと穴水、能登町の要支援者を訪問しましたが「奥能登に障害者は戻ってきていない」実態だったようです。原発のある志賀町は相談支援事業所がないこともあって、訪問は手つかずの状態とも聞いています。

また、介助が必要な高齢者は2次避難所（ホテル等）に移っても、深夜徘徊や食事の介助を理由に1、5次避難所（医

師や看護師、介護士らが常駐）に戻されたり、金銭的に福祉施設へ移れないケースが増え、滞在期間の長期化が目立ってきています。避難の長期化は災害関連死のリスクと隣り合わせ。東日本大震災の時も、「障害のある人の死亡率は2倍」というデータに衝撃を受けました。

■JDF(日本障害フォーラム)被災地障害者支援センター始動

障害のある人たちは、被災地で、避難所で、どんな困難に直面しているのでしょうか。国の各種災害支援が4月を機に、徐々に縮小・撤退していく中で、「JDF被災地障害者支援センター」はいよいよ始動。拠点を七尾市に置き、3月にはJDF(日本障害フォーラム)が、石川県内の障害者団体、行政担当者と懇談を行いました。5月13日から少なくとも来年3月まで支援を行います。

阪神淡路大震災からもうすぐ30年、東日本、熊本地震の教訓は活かされているか、命はもちろんのこと、被災者の「尊厳」が守られるような、人道支援のレベルを上げる支援活動にしたいと思っています。



能登半島地震 支援報告

Pray
For
NOTO

厚生労働省から各自治体に能登半島における避難所支援の派遣の募集があり、2月にこぶしの会より2名の職員が支援活動に携わりました。

報告①

2月24日、私は1.5次避難所の日中支援に参加しました。1.5次避難所とは、過密状態の1次避難所から旅館や仮設住宅などの2次避難所へ移るまでの間に、体調悪化による災害関連死を防ぐために設けられているもので、高齢者や障害者、乳幼児など介護や配慮が必要な方が優先的に入所できるそうです。石川県では1月8日から、金沢市内の「いしかわ総合スポーツセンター」等に開設されています。

避難所には1～2名が入れるテントの中に段ボールベッドが置かれ、フロアいっぱいにならんでいました。介護度によってフロアを分け、それぞれのフロアに医師や看護師、保健師や介護スタッフ、他府県職員やボランティアなどの支援者がいました。ほとんどが高齢者でしたが障害者も何人かおられました。私は介護スタッフとして決められた時間にトイレ誘導や所在確認をしたり、配膳が必要な方に食事を運んだり、避難者の方とお話をするなどしました。避難されている方々は知らない者同士でしたが、そこで新たなコミュニティができてお互い談笑しあっている姿も見られました。ここでできたコミュニティが、2次避難所にうつるとつながりが希薄となるという課題をどのように考えるかが必要になると感じました。

介護スタッフの不足は深刻なようで、震災から日が経つにつれてますます集まりにくくなっていくという話も聞きました。私は微力ですが、ぜひまた近いうちに支援に行かせていただきたいと思います。(文責：新谷 和博)

ミツからなま自治会
みんなで、お米(ぼんしぎ重カ)
ぼくたちは話し合いで、お米を売って売上げの
お金を、ぼんしぎにしました。
まずお米を60kg21袋入れました。ソアに
2kgずつわけていきます。
パン工場と、とうふ工房からはかりをかりて、
しぎ重カをわけて、袋に分けました。
ぼくははかりにながれているので、ずりごはかる
ことができました。
そして、紙すき班がポスターをかきました。
お米は伊藤園さんの、イベントで販売された、
売りました。ありがとうございます。

ひさいさめたみな様に言葉でお見舞い
申し上げます。
1日も早くあだやかな日常が戻りますことを、
心よりお祈り申し上げます。

報告②

私は同避難所の夜間の支援活動(20時～翌8時)に参加しました。介護班のブースにいくと色々な所から支援に来られており災害の大きさを改めて認識しました。消灯が22時でしたのでそれまで、避難されていた方の所在確認をしました。消灯後は足元が暗いのでトイレに行ったりする時、足元を懐中電灯で照らしたり、足の不自由な方の車椅子を押したりしました。夜に避難所を抜け出す方もいらっしゃるの、その方の所在確認をしたりするため広い体育館をひたすら歩いていました。避難されている方が安心して過ごせるよう少しでも支援の輪がひろがることをねがっています。(文責：木村 洋司)



こぶしの会では、仲間や家族、職員に呼びかけ「きょうされん自然災害基金」に173,000円を募金しました。こっから仲間自治会ではお米を仕入れて販売し、その利益を募金に充てる活動を行いました。法人として、継続的・長期的な支援活動に取り組んでいきます。

こっから旅行

こっから全体旅行は実に4年ぶり。昨年の12月15日、和歌山マリーナシティに行きました。

前日まで、悪天候が続いており仲間達も半ば諦めモードでありましたが、現地に近づくにつれて晴天になっていきました。こういう時、こっからの仲間達は陽転させる力を持っているなあと感じる瞬間です。

道中、いくつかの事故渋滞が重なっても、仕方がないと理解してくれる寛容さ。少なくなった自由時間は、やりたいことを吟味してひたすら楽しむことに集中する力。マグロの解体ショーでは一番前を陣取り、刀くらいの長さの鮪包丁に圧倒され、大きな鮪の身を切る音、匂いを感じました。海なし県民達が滅多に見ることのできない経験を味わいました。思わぬアクシデントがおきても気持ちを切り替えられる経験。滞在時間は短いながらも色んな和歌山を経験・体感する旅となり、こっからの仲間達の経験値が上がる旅にもなりました。

(文責：城本 知美)



ここすた旅行



11/23に神戸布引ハーブ園に行ってきました。ちょうど阪神・オリックス優勝パレードと同じ日になり、たくさんの人が電車のホームにいました。昼食は神戸の街並みが見られるカフェと、園内のおしゃれなレストランに分かれてとりました。長蛇の列のロープウェイを辛抱強く待ち、意外とスピードのある乗り物に、スリルを感じました。中ではクリスマスフェアをしており、とてもロマンチックな雰囲気、買い物もゆっくりと楽しむことができました。今回は、「残って神戸の街を楽しむチーム」を作り、異人館をめぐって夕食を食べて帰るオプションツアーも行いました。異国情緒たっぷりの旅行となりました。

(文責：島 耕治)

11月



【こっから】
松田薫さんの絵が
東大寺ビック幡に
採用されました



【こっから】
こぶしの会
年賀状
コンクール表彰式



【こっから】
こっから仲間旅行
プレゼン大会

Topix

12月



【ここに・すたあと】
クリスマス会



【こっから】クリスマス会
髷ダンスからのアイーン

1月

【こっから】
般若寺初詣



【こっから】
サークル活動
グルメ班で
クリスマスケーキ制作



【こっから】サークル活動カラオケ班



【こっから】
新春書初め大会

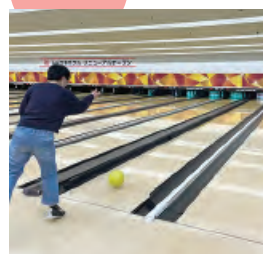


【こっから】
成人のお祝い



【すまいる】誕生日会

2月



【こっから】サークル活動
スポーツ班ボウリング大会



【ここに・すたあと】
春咲コンサートに参加しました

3月



【すたあと】
お寺の除草作業はじめました



【すまいる】
日常



【ひまわり】 休日

3/20 きょうされん奈良支部主催の 「パン・製菓交流会」に参加しました。

13事業所、30人以上が参加し盛り上がった交流会。とても和やかな雰囲気で、たくさんの事業所の利用者・職員とお話することができました。

こっからからは、仲間と職員が4人参加し、コロナ前後で変わったパンのラインナップや製造メンバーの構成の工夫などを発表しました。

どの事業所も共通して、「地域を大事にしているからこそつながりを持てている」と話されていました。また、商品パッケージにワンポイントのかわいいタグをつけたり、消しゴムはんこで手作り感のあるあたたかさを出したり、よりよく商品を見せるための工夫も参考になりました。いろんな視点から学びの多い交流会でした。

(文責：西口 祐史)



こぶしの会 全体研修・総括会議を行いました

●12月2日 法人全体研修

元JDFいわて支援センター事務局長の栗田誠さんとオンラインでつなぎ、「障害の重い仲間の避難はどのようにしていたのか」などをうかがいました。法人のBCP（事業継続計画：防災計画）を作成していることもあり、災害に対する平時の備えについて考える機会となりました。また、AED講習も行いました。

午後からは、仲間の生活支援に関してや、コミュニケーションや対人関係の難しさを持つ仲間の意志決定支援、関係づくりについて考えました。



●2月17日 法人総括会議

各班、事業所に分かれて今年度の活動を振り返り、午後からは各部署の活動報告を聞きました。「他の事業所の活動がしれてよかった」「仲間を中心とした活動を通して、仲間が楽しそうに仕事をしているのが伝わった」などの感想が寄せられました。次年度の活動方針に生かしていきたいと思います。

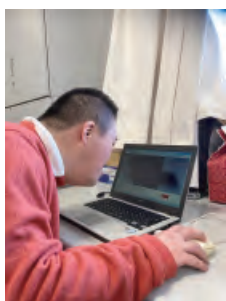


ありがとうございました！
寄 贈

①『コープ自然派奈良』さまから無添加の朝焼きパンを定期的にご提供いただける事になりました！
フードロスの問題に取り組んでおられる一環として、ご縁をいただく事になり本当に嬉しく思います。障害のある仲間たちが自律生活にチャレンジしているグループホームの朝食として、みんなで美味しくいただいています！



④リユースパソコンを2台いただきました。
大阪ガス株式会社の100%子会社『株式会社オーグス総研』さまの社会貢献活動として「はじまるくんパソコン」をこぶしの会の2事業所へご寄贈していただきました。仲間もパソコンを使って余暇活動を楽しんでいます。



②西本願寺さまより草刈り機を頂きました。
グループホームの除草作業などで活用していきます。



③株式会社カーブスジャパン各店舗さま（イオンタウン天理店・アルプラザ木津店・JR奈良店・イオンタウン大安寺店・ガーデンモール木津川店 順不同）より会員様の自宅にある食料品等を多種多彩な福祉施設へ寄贈するフードドライブ活動として2月にたくさんの食料品をご提供くださいました。こぶしの会の日中・居宅事業所や地域の子育て支援事業所（他法人）にて活用します。



Facebook 2023年度 いいねTOP3

こぶしの会のFacebookがあるのをごぞんじですか？各事業所のいろんな活動を写真や動画とともに更新しています。毎記事にコメントを寄せてくれる仲間もいます。
2023年度「いいね」の数が多かったTOP3をご紹介します。

1

こっから パン・豆腐の店舗販売再開の案内 (いいね 32)

待ち望んでくださっていた方が多かったからかな。
なかまの給料を上げるため、がんばります。



2

グループホーム 就寝前のルーティーン (いいね 28)

動画の再生回数が268回！おもわず、ほっこり。
仲間が追いかけて楽しそうに過ごす姿が好評でした。



3

ここすた 月1のカレーの日 (いいね 24)

カレーは人気ということでしょうか？
スパイスが効いたカレー、おいしそうでしょう。



やっぱり、なかまの素敵な笑顔が見られるのがとてもいいですね。
週2回ぐらいを目標に更新しています。
よろしければ、時々ぞいてみてくださいね。(文責：小西 桃子)

第47次 国会請願署名・募金活動にご協力おねがいします。

きょうされんが毎年取り組んでいる署名・募金活動。先日、天理駅前街頭署名を利用者部会「あかつき」で行いました。たくさんの方が足を止めてくださりました。「天理の人はやさしいな」との仲間のつぶやきが印象的でした。その後、天理の事業所に見学に行くとクッキー&コーヒーのふるまいを頂きました。これからあたたかくなり、人にも会う機会が増えると思います。ぜひ、取り組みのご協力お願いいたします。(文責:島 耕治)



表・紙・解・説

■表紙作者

プロフィール

作 者:

岡田隼人さん

作品紹介:

毎日毎日、顔を描きます。自分なのか、お母さんなのか、友達なのか。

たまに前髪の色が変わります。表紙は、紙に描いたものが木の下敷きに残ったペンの跡です。



社会福祉法人こぶしの会では、事業拡大に伴い私たちと一緒に働いてくれる、**正規職員(生活支援員) 非正規職員(生活支援員・グループホーム職員・送迎スタッフ)**を募集しています。

■生活支援員(正規職員)

支 援 内 容	障害のある人たちの仕事や生活のサポート(食品製造・配達、文化活動、健康維持、身辺自立等)送迎、法人内事業所間の異動有
勤 務 時 間	8時45分～17時30分(配属班によっては早出有り)
給 与・手 当	185,935円～216,685円(調整手当含む) 賞与2カ月/年 通勤手当、住宅手当、家族手当、処遇改善手当、その他職務手当
社会保険等	健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険
必要資格等	普通自動車免許(必須)、基本的なPC操作(エクセル、ワード)

※非正規職員も募集しています。1,010円(経験者1,060円)

■グループホーム支援員(非正規職員)

支 援 内 容	グループホームでの生活全般(食事、入浴、整容等)の介助や見守り
勤 務 時 間	16時～翌10時までの宿泊をとまなう勤務 ※またはこの時間内で3～5時間で宿泊をとまなわない勤務についても応相談
給 与・手 当	1,010円(経験者1,060円) 夜勤手当、通勤手当、業務手当 ※契約時間によって社会保険適用
必 要 資 格	不問

求人随時おこなっています。未経験の方も安心して働けるようサポートします。詳細・お問い合わせにつきましては、こっから/梅田(0742-63-6765)又は法人本部/藤井(0742-63-6504)までご連絡ください。

編集後記

新年度が始まりました。法人設立から23期目となり、原点の無認可共同作業づくり運動から36年が経過したことになります。こぶしの会はこれまで一貫して「仲間が主人公」という理念を掲げ、障害のある人とそのご家族のねがいの実現に取り組んできました。そしてきょうされん運動を指針とし、先駆的な全国の取り組みに学びながらも「奈良らしさ」を大切に、事業、実践、運動を3つの柱に活動を展開してきました。

制度も社会資源もない中で、廃品回収やバザー、カンパ活動や事業販売などで資金を作り、限られた制度を活用しながら「なければ作る」の精神で必要な仕組みや制度をつくりだし、「働くことは権利である」ことを掲げ、どんなに重い障害があっても自分らしく働き、表現し、それを通して社会とつながっていく事を実践してきました。またそれらは「一人ぼっちの障害者をつくらない」の合言葉のもとに、仲間を中心に家族や関係者、後援会員や行政も巻き込みながらみんなでつくる

(きょうどう) こと。そして広く地域に訴え理解と共感を得ながら、この運動は決して障害者のためだけではなく、「障害のある人が安心して暮らせる社会は誰もが安心して暮らせる社会」というみんなの幸せにつながるものだという事を最終の目的として今も歩み続けています(今号もそんな「こぶしイズム」満載の報告となりました)。

今年度はこれから5年先を見通した第2期中期事業計画策定の1年となります。法人設立20周年が経過し、コロナ禍を乗り越えたいま、運動開設当初のメンバーから世代交代が進む中で仲間や家族を取り巻く環境の変化、社会構造の変化と地域が抱える様々な課題にどの様に向き合っていくのか。こぶしの会の未来を明るく希望の持てるものにしていくために、改めて法人の歩みを問い直し、変わってはいけない事、変わらなければいけない事は何かを考えていきたいと思います。

(文責:古木 一夫)

こちらも
ご覧ください

<http://kokkara.jp/>

・ネットショップ ・活動ブログ
・ニュースブログもお楽しみ下さい。



こっから facebook